

いつもお世話になっております。

相場格言で「節分天井・彼岸底」というのがあります。

節分あたりで相場が天井をつけて、お彼岸あたりで底を付けるというものです。もともとは日本のコメ相場での格言だそうです。

先日当社の若手ファイナンシャルアドバイザー（FA）にこの格言を知っているか聞いたところ、「知らない」とのことでした。

私は驚きましたし、いわゆる世代間格差を感じました。私が若い頃であればこのようなFAは上司から叱責されていたでしょうが、今日のグローバル金融の中では問題がないようにも思います。なぜなら、今日の金融相場というのは世界のマーケットに大きく連動しますし、日本のマーケット参加者は日本人だけでもないですし、日本独特の相場格言というのは最早知らなくてもよくなっているのかもしれないと考えるからです。

さて今年の相場については、彼岸底についてはともかく、節分天井の様相ではあります。トランプ関税の影響で、世界中の株式相場は久しぶりに大きく下落しました。なかなか無い下落相場でしたので、大きなショックを受けられた方も多かったのではないのでしょうか？

当社では債券中心の運用を推奨していますが、このような下落相場の時は特に、債券のありがたみが顕著となります。

ということかといいますと、株や投資信託の場合は満期というのがありませんので、今日下がったものが、いずれ戻るという保証がありません。明日以降も下げる可能性もありますので、毎日価格をチェックし、見通しをいくつもヒアリングし、保有を続けるか損を確定してしまうかなどを決断し続けることとなります。下落相場が長く続くと、損失の額もストレスとなりますが、多くの人はこの一連の作業・決断に疲れ果ててしまいます。

債券については満期が決まっており、年間に獲得できる利息も決まっており、途中で含み損をかかえたとしても、保有し続ければ最後には決まった額面で償還しますので、精神的に楽なのです。

当社の推奨する投資哲学は「債券中心の運用で、売り買いで儲けようとせず、利息の積み重ねを目指す。」というものです。

もし債券運用をこれまでされてない方、この下落相場で債券のありがたみを体感された方は、ぜひとも当社にて債券運用を検討していただけたらと思います。

これからも当社の債券ビジネスをよろしくお願いいたします。



5バリューアセット株式会社
代表取締役 齊藤 彰一

2025年4月15日